



## 知っておきたい斜面のはなし Q & A

### —斜面と暮らす—

編集：土木学会 地盤工学委員会 斜面工学研究小  
委員会「知っておきたい斜面のはなし Q & A」  
編集委員会

発行：社団法人 土木学会

発売：丸善株式会社

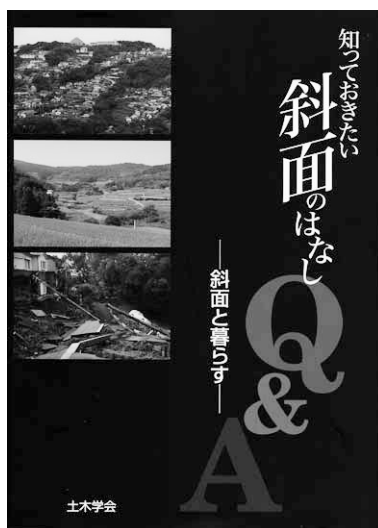
B5版，291頁

平成17(2005)年12月20日発行，定価1,400円＋税

ISBN 4-8106-0468-3

国土の7割が山地・丘陵地からなり、地震が多く、降水量も多い我が国にとって、土砂災害は避けては通ることのできない国家的ともいえる大きな問題です。平穏な暮らしが営まれている山村や、たくさんの人々が住む平野縁辺の造成丘陵地までもが、少なからず土砂災害の危険にさらされていると言っても過言ではありません。特に梅雨末期や台風シーズンには、土砂災害により、これまで多くの尊い人命が失われ、そのたびに報道にぎわしてきました。

本書は、土木学会のなかで、特に斜面を専門とする研究者が中心となって委員会をつくり、委員会として斜面防災になにか貢献できないかとの考えに基づき企画されたものだそうです。実際に本書には、斜面と長く付き合っていくうえでの知識、そして土砂災害の対策や災害への備えに関するアドバイスが満載されています。また、本書は、これから斜面について学ぼうとする学生や実務関係者、自治体の防災関係者、そして一般の方々をも含めた、どちらかという斜面の初心者を中心としたものであり、全体を通して平易な表現で分かりやすく記述されています。そして本書の最大の特徴といえるのは、表題にもあるようにQ & A方式をとり、すべての項目を見開き2ページの読み切りになっている点でしょう。このような形式は、通して読まなければいけないという義務感から解放され、肩の力を抜いて、好きなときに興味のあるところだけを読む(場合によっては、必要なときに必要なところだけを読む)ことができるのがなんとも良いと思いました。しかし、本書の構成をよく見ると、それぞれの項目の順序も実はよく吟味されていることが分かります。まずは概説的な項目から始まり、土砂災害の素因・誘因、斜面の管理、そして斜面との上手な付き合い方、というような流れが感じ取れます。そしてこれらの項目全てが、第一線で活躍する多数の研究者・技



術者により、各人の得意分野を活かして執筆されていることも特筆すべき点です。執筆者が多数のためか少し用語が統一されていない感はありますが、平易な表現であっても内容は専門の方にも十分読み応えのあるものです。

斜面管理を専門にしている方にとっては現在では普通のことかもしれませんが、私にとって本書に新鮮さを感じたのは、実は斜面の管理を環境・生態系の視点から考えた解説が充実している点でした。斜面には、その場所の地盤環境、微地形に応じた植生が発達しており、例えば地すべり地には地すべり地に特有の植生が分布していること、斜面管理には自然環境を積極的に利用すべきであり、かつ自然環境の保全と斜面管理を両立させるとの考えから、斜面緑化の基本的な方針が時代とともに変化していったこと、などが示されています。また、景観も含めたトータルな斜面管理の要点が示されています。地質屋の偏った見方だと、土砂災害調査をとかく地質(地盤)に関する素因の追求に固執してしまいがちですが、実際に頻発する中層以浅の土砂移動は、地盤だけでなく植生が非常に重要なファクターになっていることを改めて思い知る内容でした。

本書は、一般の方から専門の方まで、力まず楽しんで読むことができ、そして読んで良かった、為になったと純粋に感じさせる本だと思います。本書を通じてひとりでも多くの方に斜面防災に関心を持っていただき、そして、まずは個々人の防災に関する意識改革を促すことが本書の大きな役割ではないかと思いました。価格も一般の方が購入しやすいように低く抑えてあるようです。価値ある1冊です。(地質情報研究部門 中澤 努)